

企画展「弥生農耕ことはじめ」主な展示品

**1 石製収穫具 (せきせいしゅうかくぐ)**

吉野ヶ里遺跡 (佐賀県神埼市ほか)

弥生時代

佐賀県文化課文化財保護・活用室蔵

吉野ヶ里遺跡は弥生時代を代表する環濠集落遺跡で、様々な農具が出土しています。写真は石製収穫具で、磨製石包丁、大型石包丁、石鎌など、基本的な収穫具のセットが揃っています。企画展では、他に鉄製摘鎌 (つみがま)、鉄鎌、木製の堅杵 (たてぎね)などを展示します。

**2 石包丁 (いしばうちょう)**

郡 (こおり) 遺跡・倍賀 (へか) 遺跡

(大阪府茨木市)

弥生時代中期

茨木市教育委員会蔵

郡遺跡・倍賀遺跡から7点の石包丁が並べられたように出土しました。内2点は大型石包丁で、刃の長さは37cmもある大きなものです。磨製石包丁には、使用で磨り減った痕跡があり、石包丁がどのように使われたのかを知る良好な資料です。

**3 堅杵 (たてぎね)**

南方遺跡 (岡山県岡山市)

弥生時代

岡山市埋蔵文化財センター蔵

堅杵は、丸太状の木製品です。中央に握り部を作り、両端を使って搗 (つ) く道具です。米の脱穀や粃摺 (もみすり) に用いられました。左は長さ114cmある一般的な大きさの堅杵です。右の堅杵は長さ約21cmと非常に小さなものですが、両端には使用された痕跡があります。

**4 彩文土器壺 (さいもんどきつぼ)**

【唐津市指定文化財】

菜畑遺跡 (佐賀県唐津市)

弥生時代早期

唐津市教育委員会蔵

菜畑遺跡は日本最古の稲作遺跡の一つで、水田遺構の他、石包丁、石鎌、堅杵など基本的な農具が出土しています。写真の小型壺は、黒色でよく磨かれており、沈線と赤彩で装飾されています。種籾の保存などに用いられたのでしょうか。